

4. 内陸地震は、どこでどうして起きるのか？

「自然災害の防災・減災コラム」(知識編)の

「2. 大地震ってなに？ どうすれば大地震になる

のか？」(本NPOのH.P.に2024年7月15日公開)

で記述したように、地震のタイプには大きく

3つあります。ここでは、内陸型地震(断層型地震

や直下型地震という場合もあります)について

考えてみたいと思います。気象庁のH.P.による

と、海溝型地震と内陸型地震は、実際発生した地震

と共に、右図のように示されています。内陸型

地震は、右図の「陸域の浅い地震」であり、内陸部

(陸のプレート内)にある活断層や地盤などで

発生する、震源が比較的浅い(地下約5~20kmぐらい)地震です。私たちが生活している

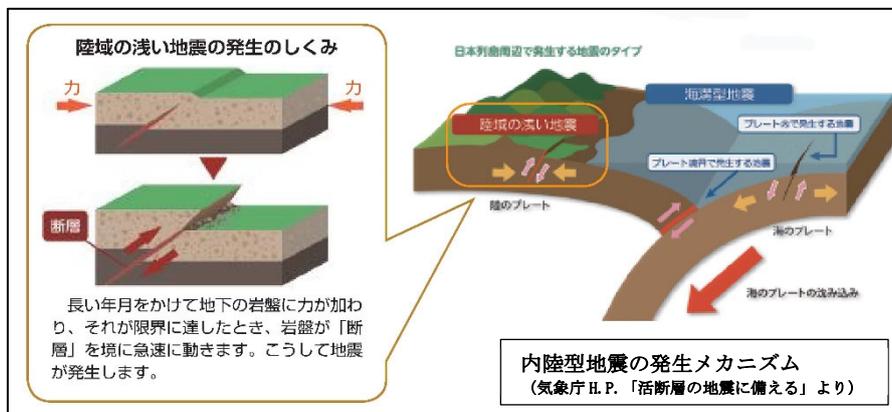
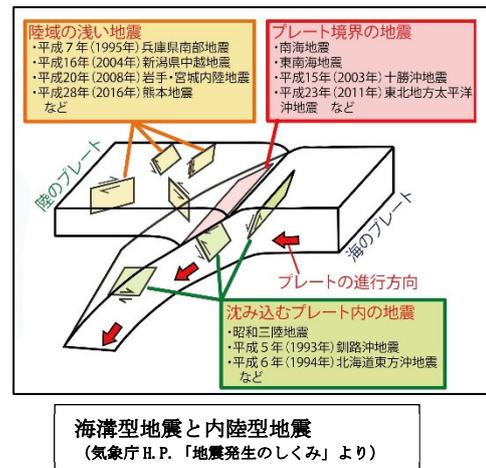
直下に震源があるため、震源地の近くでは揺れが激しく、大きな被害をもたらします。

1995年の阪神淡路大震災や令和6年能登半島地震による被害を思い出して頂ければ、お

わかりになると思います。

この内陸型地震はどのように発生するのでしょうか？気象庁のH.P.にわかりやすい図面

がありましたので、載せさせて頂きました(下図)。



地球を覆っている海のプレートが移動することによって、陸のプレートは圧縮されています。

その押し合う力によって、陸のプレート内の地層が壊れてずれる断層活動によって

内陸型地震は発生します。この断層のうち、過去に繰り返し地震を起こし、将来も地震を

起こすと考えられている断層を「活断層」といいます。「活断層」は、一定の間隔で繰り返

しずれ動くように活動し、地震を起こします。日本には2,000以上の活断層が見つ

かっています。自分が住んでいる近くに「活断層」がないかを知っておくことは大事な

ことだと思いますので、ぜひ気象庁のH.P.などで確認してみてください。ただし、活断層の活動

は、長期間隔であることが多いので、発生時期の予測には注意が必要です。また、まだ見

つかっていない隠れた活断層があることにも頭に入れておいて下さい。(H.K.)